

近着石刻関係書所収元代石刻リスト5

森田 憲司

引き続き、近年に中国で刊行され、日本に入荷した石刻関係書のうちから、元代石刻の拓影や写真、あるいは録文を掲載するものを紹介する。

ところで、以下の内容に関連して、付記しておきたいことがある。それは、碑の命名についてであるが、近年の石刻関係の図録・目録類を見ると、命名や年代の確定の方式が不統一である。森田は、こうした問題について、文部省科学研究費補助金特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」A01-02「中国科举制度からみた寧波士人社会の形成と展開」の研究分担者として、2007年12月に早稲田大学で開催された同研究課題の研究集会においても、「元朝石刻史料研究の基礎的課題」と題して報告をさせていただいている。ここでは、そこでの問題提起の実践の一部として、石刻の名前については、各書籍の命名をそのまま転載するのではなく、石刻での記載に基づくものとするとともに、その典拠を石刻名の後に（ ）で表示することにした。

温州歴代碑刻二集(温州文献叢書) 呉明哲編 上海社会科学院出版社 2006.4

多数の碑を載せるも(唐から民国まで919件、うち元は27件)、文集、地方志、族譜、あるいは金石志などからの引用が大部分で、原石あるいは拓本からの録出は少ない。以下、それらのみを掲げる。

上冊

永嘉県

極楽禅寺碑(本書命名) 林慧生 至正3年(1343) 22p 拓影あり(図3)

乐清県・洞頭県・玉環県 なし

下冊

瑞安県

重修仙巖塔記(題) 積廷俊 後至元4年(1339) 588p 拓影あり(図39)

平陽県

選真寺記(篆額) 孔克表 至正11年(1351) 917p 拓影あり(図60)

衢州墓誌碑刻集録 柴福有他編 浙江人民美術出版社 2006.6

本書は総アート紙に鮮明な印刷がなされており、資料として利用しやすい。各石刻について拓影(すべてではない)、拓影の部分拡大(デザイン的に掲載)、録文が掲載されている。収録されている石刻は、墓誌篇に、唐3、宋20、元3、明12、民国1。碑刻(衢州孔氏南宋家廟史料)に、宋1、明4、清13。碑刻(周宣靈王廟碑)に、明2、清6。碑刻(碑記)に、唐1、明4、清24。拓本(墓誌)、民国1。拓本(碑刻)、宋2、明2、清4。

ちなみに、金の侵入によって宋王朝が南遷したのにもない、孔子の子孫である衍聖公家は衢州に居を移し、金によって維持された曲阜の衍聖公に対し、「南宗」と称された。元朝による南北の統一後もその地位を維持し、後世まで衢州において継続したことについては、森田「孔子の子孫に見る知識人支配の実態 元朝治世下の衍聖公」(『歴史群像』25「ジンギス・カン下」 学研 1991)を参照されたい。上記の掲載数の箇所でもわかるように、衍聖公家南宗関係の石刻は、明代以降のものしか本書には収められていないが(宋代のものは画像)、「宋口口致政口公壙志」(42p)のように、衍聖公家と関係のある人物の墓誌はある。

また、宋代元代の部分には、森田が「『臨海墓誌集録』所収資料から見た新出宋元墓誌の史料特性」(『13、14世紀東アジア史料通信』6 2006)や、「系譜史料としての新出土墓誌 臨海出土墓誌群を材料として」(『奈良史学』22 2007)で取りあげ、江南石刻を今後検討するにあたっての課題の1つであると考えている「壙志」がいくつか含まれており、史料としての活用の可能性がある。この問題については、本稿の趣旨とは異なるので、別の機会に検討を加えたい。撰者名の後に()で撰者の被葬者との関係を記入したのは、そのための予備作業である。以下、同じ、
本書所収の元の石刻は、以下の通り。

故贈昭勇大將軍上輕東都尉雲中郡侯蛮狗万戸壙誌(題) 保安(孫) 後至元5年(1339) 52p

故河南竹逸教諭(葉邦猷)壙誌(題) 葉仲寧(子) 天曆元年(1328) 54p

故從仕郎錢塘縣丞毛公(希聖)壙誌(篆額) 毛紹文(子) 元統3年(1333) 56p

さらに、次の2件の墓誌は南宋末の夫妻の墓誌であるが、この夫妻は、他に先んじてモンゴルの侵入を受けた四川に在住し、その混乱から脱出して衢州で世を終えることになった。したがって、モンゴル侵入期の四川にかかわる記事を含み、元朝史研究の史料としても利用の可能性を有している。

有宋婦齊郡宜人楊氏(史繩祖妻)壙誌(題) 史繩祖(夫) 咸淳7年(1271) 46p

史繩祖壙志(森田命名) 史孝祥(子) 咸淳10年(1274) 48p

河北柏郷金石録 史雲征・史磊編 文物出版社 2006.10

それぞれの石刻について、全景拓影、剪装形式での拓影、録文を掲載する。総アート紙で、非常に鮮明に印刷されており、史料としての利用には便である。「河北柏郷県古代碑石名録」を附載する。

柏郷尹張君德政之碑(題) 元明善(趙孟頫書) 延祐4年(1317) 11p

賈母貞節碑記（本書命名） 撰者不明（趙孟頫書） 延祐2年（1315） 37p
貞節堂記（題） 楊載撰（趙孟頫書） 延祐2年（1315） 61p
趙郡賈氏先塋碑（題） 吳澄撰 泰定元年（1324） 89p

新中国出土墓誌・江蘇[壹]常熟 中国文物研究所・常熟博物館編 文物出版社
2006.11

大元故貴溪県儒学教諭錢（君[熙祖]壙）誌（題） 錢沂（子） 至正5年（1345）
40p

※「錢」の下2字欠、『新中国出土墓誌』は「君墓」と補うが、内容から「君壙」の可能性が高い。

嘉興歴代碑刻集 嘉興市文化広電新聞出版局編 群言出版社 2007.1

録文のみであるが、詳細な注がつけられている。全体は石刻の所在地ごとに5つの部分に分けられており、法帖も載せている。255件を掲載する。

重修嘉興路総管府治記（光緒府志による） 韓璵 後至元5年（1339） 攬秀園・府治府城碑 259p

※現在では剥落が多いため『（光緒）嘉興府志』の録文を『両浙金石志』で補ったものを附している

嘉興路総管府経歴司題名記（題？） 鮑恂 至正15年（1355） 攬秀園・府治府城碑 263p

嘉興路重建水駅記（題？） 兪鎮 後至元6年（1340） 西駅亭 554p

（もりた けんじ 奈良大学）